

清水 ゆき

開成町議会議員
2023 年度前期活動報告書

発行：令和 5 年 10 月
発行責任者：清水友紀支援の会
連絡先：※紙面にて掲載
yukishimizu06@gmail.com

【ごあいさつ】4月の統一地方選では大変多くのご付託を受け初当選いたしました。私たち自身と、次世代を担う子ども達が明るい希望を抱くことができる、より良い町を目指して日々奮闘中です。
町議会議員としての約半年間の活動を、本紙にてご報告いたします。



テーマ1 町民が誇れる駅前。新町長に確認しました

6月議会では、その2か月前にパトタッチしたばかりの山神新町長にこれから整備を進めていく駅前通り線のビジョンを問いました。内容について住民と対話を重ね、オール開成で整えていくと繰り返し強調されました。

—背景—

平成19年に策定、27年に見直された「開成町都市計画マスタープラン」には、駅前通り線について下図の将来イメージ像が掲載されています。



「人と水と緑と調和した町の玄関口にふさわしい景観となるよう(中略)修景化を図る」として、町は計画的な“まちづくり”を展開する指針として策定したにもかかわらず、令和3年10月、「広報かいせい」に将来イメージ像として突如として別図(右上)が掲載されました。

当時、自治会長だった私のもとには「どこの街だか分からない将来像。



近くの住民になんの話もないのか」等、多くの疑問の声が届きました。

議会では、「人口減に向かっている今、これが町の目指す駅前通りか？」と問いました。(答えは前述の通り)

今後も移住者を呼び込み、活気ある駅前とするなら、町は若い世代の声も聞き、**確固とした、町が理想とする構想案を持つこと**。それが説得力を増し事業を円滑に進めると思います。

町の長所が際立つ、時代に合った事業の展開が丁寧に図られるよう、議員として注視して参ります。

テーマ2 子どもはみんな 子どもの たからもの

国が4月に発足した子ども家庭庁は、「こどもまんなか社会」の実現に向け、子どもや子育て中の保護者の意見を取り入れた政策立案を推奨しています。開成町では実現できているのか

9月議会の R4年度決算審議では主に2点について質疑を行いました。

—学童保育所について—

歳出(千円以下切り捨て)

・「放課後児童対策事業費」1億 2713 万円
(新設工事費など、R3年度からの継続事業。総事業費 40%を R4年度に計上)

長時間を過ごす夏休み中、酷暑では外で遊べず、プールの利用がない学童保育所の過ごし方について、校内施設の利用の可能性はないのか問いました。また学童利用条件はフルタイム勤務が基本で、多様な働き方に対応していません。町は必要に応じて調整していくとのことです。

—駅前子育て支援センターについて—

歳出(千円以下切り捨て)

・「子育て支援事業費」4828 万円

(主に支援センターとファミサポ関連費。拡張工事費 930 万円、フロア賃借料 758 万円含む) 町内新興地区に加え栢山方面からの利用もあり、利用者には高評価を得ている施設。しかし町内全域からの利用があるかの分析や、町内全域の保護者へのニーズ調査は、なされていない現状が判明しました。



ご意見、ご相談は
こちらから。メールも可



日々の活動や考え
をブログ配信中